

収入保険加入で経営リスク低減 採蜜地で蜂蜜を特産に

村上 康裕さん・伊豆の国市

【静岡支局】伊豆の国市田中山の村上康裕さん(54)は、1群当たり1万〜4万匹ほどのセイヨウミツバチ300群を飼育する養蜂農家だ。ベンチャー企業のエンジニアから転職し、20年以上がたつ。実家がミカン農家で「父の遺品である5群の蜜蜂を絶やしたくない」と思い、養蜂を始めた。

養蜂には、1拠点で採蜜する定置養蜂と、複数拠点を移動しながら採蜜を行う移動養蜂がある。村上さんは蜜蜂の飼育や採蜜に適した蜜源豊かな環境を求め、移動養蜂を行う。



ミカンの花から採蜜するため、沼津市西浦に設置した巣箱を前に村上さんに

hive」のブランド名でインターネット販売するほか、伊豆や長野で直売している。

移動養蜂では採蜜量が増える反面、移動時に巣箱内の温度が上昇し、蜜蜂が死んでしまう「蒸殺」などのリスクが懸念される。また、昨今の気象状況の変化にも不安を抱き、「急激な気温の変化などは、花や蜜蜂の生育にも影響を与えています」と話す。

そのようなリスクから経営を守るため、村上さんは収入保険に加入し2年目になる。「蒸殺をはじめとするあらゆるリスクから守ってくれる心強い保険があり、安心して養蜂経営ができます」と話す。

蜜蜂の寿命は約1カ月で、一生の採蜜量は小さじ1杯ほどという。「自然からの恵みである蜜を、できるだけそのままの味で提供しています。蜂蜜が採蜜地の特産となることで、養蜂業界への貢献とともに、地域への恩返しになれば」と話す。

(吉永)